

平成 28 年度 8020 公募研究報告書 抄録 (採択番号 16-5-17)

研究課題： 歯周疾患と動脈硬化との関係に関するコホート研究～ながはま 0 次  
予防コホート事業～

研究者名：浅井啓太<sup>1)</sup> 園部純也<sup>1)</sup> 山崎 亨<sup>2)</sup> 高橋 克<sup>1)</sup> 山口昭彦<sup>1)</sup>  
別所和久<sup>1)</sup>

所属：<sup>1)</sup> 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野  
<sup>2)</sup> 三重大学医学部附属病院 疫学センター

歯周疾患が動脈硬化にあたる影響について、われわれのグループは、ながはま 0 次予防コホート事業の初回調査データを用いた横断研究から、喪失歯数の増加が動脈硬化の増悪に影響する可能性を報告した。前回の報告は横断研究であり、因果関係を示すことはできていない。今回の研究では、ながはま 0 次予防コホート事業の初回および 2 期調査の両方データがそろっている参加者を対象とし、前向きコホート研究により、歯周疾患の増悪が動脈硬化の増悪に影響するかを検討した。

ながはま 0 次予防コホート事業の初回調査および第 2 期調査の 2 回ともに参加された 2008 年から 2014 年までの男性 1206 人、女性 2574 人を対象とした。動脈硬化の評価 Cardio Ankle Vascular Index (CAVI) (Vasera vs-1000, 1500 フクダ電子) を用いた。口腔疾患の測定については、喪失歯数を連続変数およびカテゴリ変数として用いた。その他、生理学的検査、血液検査、生活習慣などを調査した。CAVI 値上昇の有無と喪失歯数増加の有無に関するリスク比、年齢、喪失歯数、高血圧、糖尿病、喫煙習慣を調整したオッズ比を算出した。京都大学医の倫理委員会と長浜市の 0 次予防コホート事業審査会の承認を得た。

CAVI と喪失歯数との関係について、男性ではリスク比 1.05、95%信頼区間が 0.98-1.12 と有意な関連は認めなかった。女性においてもリスク比 1.02、95%信頼区間が 0.97-1.07 と有意な関連は認めなかった。CAVI の増悪の有無を目的変数とした logistic 回帰分析を行った。男性では、いずれの項目も有意な関連を認めなかった。女性では年齢がオッズ比 1.37、95%信頼区間 1.08-1.73 と有意な関連を認めた。その他の項目に有意な関連は認められなかった。

本研究では、5 年間の追跡調査を行い、CAVI 値の増加と喪失歯数との増加について検討した。今回の検討では、CAV 値の増加と喪失歯数の増加に有意な関連は認めなかった。動脈硬化は長期間の炎症状態が影響し慢性的に進行するため、5 年間という追跡期間が十分ではない可能性も考えられる。今回の調査では、現状使用できるデータを用いた検討であった。今後はサンプルサイズを大きくし解析を行う予定である。また、今後も長期間の追跡を行うことにより、口腔内の炎症性疾患が全身に与える影響について検討していくことが可能であると考えられる。